2021 年度自主事業

生活や活動についての新型コロナウィルス感染症による影響について
調査結果概要

2022 年 3 月

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団

2020 東京オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、2020 東京オリパラ）は、新型コロナウィルス感染症の影響もあり、開催期間が 1 年延期され、ホストタウン等の事前合宿や交流の中止、競技大会中は無観客（一部有観客）での開催となるなど、極めて異例な開催となりました。

2020 東京オリパラが延期された 2020 年度には、日常生活や日常生活に伴う移動にどのような影響があったかを有識者・障害当事者へのインタビュー調査を行い整理いたしました。

今年度も、コロナ禍における日常生活や日常生活に伴う移動への影響の変化を概観することを目的に、普段よりエコモ財団の活動にご協力頂いている有識者・障害当事者の方々へのインタビュー調査を行いました。インタビュー調査は、2021 年 12 月～2022 年 2 月で実施し、前回お話をお伺いした有識者・障害当事者 13 名※の方にご協力頂きました。

インタビュー調査結果は、2020 東京オリパラ開催中の移動や交通の変化や、新型コロナウィルス感染症による日常生活や日常生活に伴う移動の変化についてお伺いした内容を整理しました。

インタビュー調査にご協力頂きました方々に感謝申し上げますと共に、新型コロナウィルス感染症の感染状況は高止まりの傾向を示し、3 回目のワクチン接種が進められている状況ではありますが、皆様からお聞きした現状をお伝えすることで、今後の対策、対応のご参考と頂けましたら幸いです。

１．2020 東京オリパラ開催中の移動や交通の変化 ・・2
２．日常生活や活動についての新型コロナウィルス感染症による影響について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

※国際的に情報発信されている方や、有識者、団体で活動されている車椅子使用の方（4 名）、団体で活動されている方、民間企業でお勤めの視覚障害の方（2 名）、中途失聴、難聴の当事者で企業でお勤めの方や、講師活動をしている聴覚障害の方（3 名）、団体で活動されている精神障害の方（1 名））、知的障害に関わる団体で活動されているご家族の方（1 名）、発達障害に関わる活動をしているご家族の方（1 名）、団体で活動されている難病の方（1 名）

１．2020 東京オリパラ開催中の移動や交通の変化

2020 東京オリパラ開催中の移動と交通の変化について伺ったところ、新型コロナウィルス感染症が感染拡大していた時期でもあったため、「移動を控えた」とする一方、通常通り通勤や外出をされている方もいた。一部通勤経路等の変更を余儀なくされたり、業務内容が変更されたことがあったようである。

2020 東京オリパラ関連のイベントとして、海外メディアのインタビューを受けたり、応援大使や聖火リレー等に参加された方がいた。聖火リレーは時期によって会場内でのリレーやトーチリレーに変更されたようであるが、とても貴重な経験であったと共に、ボランティアが素晴らしい対応であったとのことだった。

また、聴覚に障害のある方は、無観客であったため、競技会場の磁気ループなどのバリアフリー設備の運営状況の確認ができなかったが、テレビ字幕の実証実験に参加されたり、視覚に障害のある方は、音声解説アプリの実証実験に参加されたとのことだった。

①車椅子使用の方

a.国際的に情報発信されている車椅子の方

・コカ・コーラキャンペーン CM#WeThe15（youtube 限定　https://www.cocacola.co.jp/press-center/news-20210831-11）の一人として出演した。

・英語サイトを運営しているからか、海外メデイアからのインタビューに 4 回ほど対応した。

・NHK が数百時間放送していて、いつでも見られることは良い機会だった。

・聖火ランナーを自治体から依頼されたが、トーチキスとなりステージで 2 分程度のイベントだったが、閉会式の後の動画にも 2 秒程度写った。ステージへのアクセスで電動車椅子から軽い車椅子への乗り換えを依頼され断ったが、当日はリフトもありアクセスできた。

・ほとんど外出していなかったが、一度空港から帰るとき UD タクシーを利用しようとして「使用方法がわからない」ということで乗車拒否があったが、タクシー協会の人がドライバーに注意してくれたので、積極的に対応してくれた。

・S ライドアプリで JPN タクシーを指定して使用してみたが、よかった。

b.有識者

・東京都のパラリンピック応援大使だったので、開催前は会議などに参加していたが、開催期間中は感染者も急増していたため、ほとんど外出せず、テレビ等で観戦していた。

・東京都の競技施設設計の関係者にはチケット配布ということもあったようだが、コロナ禍でそれもなかった。

c.団体で活動されている車椅子の方

・開催期間中は感染者も多く、ほとんど外出していなかった。

・らくらくおでかけネットの段差隙間解消情報は参考にしている。

d.団体で活動されている車椅子の方

・車椅子ラグビーのファンなので、練習を見に行ったりしたが、報道関係が多く近づけなかった。

・人が利用しない時間を探して、コミュニティバスなどを利用した。

②視覚障害のある方

e.団体で活動されている視覚障害の方

・変化はなく、週 1～2 回程度通勤していた。

f.民間企業でお勤めの視覚障害の方

・テレビで観戦が中心だったが、音声解説アプリの実証実験に参加した。生の解説で「打った」「返した」など単純なことを人が入力し音声合成装置で放送される仕組みらしく、テレビでの解説を聞きながら補足としてこのアプリを利用するイメージだった。球の音などが聞こえ臨場感も伝わってきた。

・特に変化はなかったが、街が閑散としていた。

③聴覚障害のある方

g.中途失聴、難聴の当事者で企業でお勤めの方

・開催期間中はほとんど外出していなかった。

・テレビの字幕配信のチェックの他、国立競技場の磁気ループ席の申込方法や運用の確認をしたかったが、無観客になり実現できなかった。

h.中途失聴、難聴の当事者で企業でお勤めの方

・社内では、オリパラが延期になりイベントも中止になっていた時期だったので、観客の誘導についての説明会がオンラインで開催された程度。同僚ではボランティアに参加していた人もいたが、社員に手話通訳が用意できずUD トークや筆談で対応するようにとのことだった。

・週 3 日の出勤、2 日は休業。企業ボランティアとして選手団、コーチなどを担当した人は 24 時間体制だったので、大変だったと思う。

i.講師活動をしている聴覚障害の方

・外出を控え、オンラインシンポジウムなどに何度か参加した程度。

・常勤ではないが通勤コースを変更し、大きく迂回することになり暑い時期だったので大変だった。

・AI によるアニメーションの実況中継なども時々みていた。

・UD 放送に積極的な取り組みがあり、「ぴったり字幕」が実際に導入された。

④精神障害のある方

j.団体で活動されている精神障害の方

・7 月は週 2 勤務、8 月は週 1 勤務であった。感染者数が発表されると落ち着かないが、ニュースアプリをインストールしてチェックはしていた。

⑤知的障害のある方

k.知的障害に関わる団体で活動されているご家族の方

・日常生活に伴う移動について特に変化はなく、困ったという意見も聞いていない。

・支援学校で競技場に行って観戦する予定だったが、とりやめになった。

・パラリンピック開会式にダンサーで参加していた人もいたようだが、事前に知らせることが禁止されていたため、みんなで応援はできなかった。

・聖火リレー（トーチリレー）はが特別支援学校が出発地点だったので、関係者で応援し盛り上げた。

⑥発達障害のある方

l.発達障害に関わる活動をしているご家族の方

・親御さんは自粛の意識が高く、家庭でテレビを見るなど、外出はあまりなかったようだ。会社によっては夏休みに設定していたりして、人が少なかったので電車などもすいていて快適であったということだ。

・感染防止の観点からイベントの参加というのはあまり聞かなかった。

・聖火ランナーとして参加した。公園やグラウンドを周回、往復するコースを 15 名程度でリレーした。体育館には時間差で集合したり密にならないよう調整されており、バス移動も少人数が分散し、隣同士に座らないようなど配慮されていた。家族も 4 名まで現地参加可能であったため、現地で合流し写真撮影など行った。

・ボランティアの接遇が素晴らしく、体育館に集まり説明を受けた後、ユニフォームに着替えバス移動の際にも見送りを受けるなどアスリートのような扱いで、ソーシャルディスタンスを取りながら最善の接遇と感じた。

⑦難病の方

m.団体で活動されている団体の方

・変化はないが、開放的な気持ちになり大声で話す人が出てくるのではないかと心配だった。

２．新型コロナウィルス感染症による日常生活や日常生活に伴う移動における変化

日常生活について「職場・学校」「買い物」「通院」「会合」「娯楽」「行政等手続」の場面ごとに、さらに日常生活に移動について、2020 年度からの変化した点を伺った結果は以下の通りである。

２-1．職場・学校

仕事は在宅勤務が継続している一方、業務的には在宅できない方もいた。オンライン化がより進み、会議等はより活発にオンラインでの開催が進み、通信環境や情報保障への対応もより使いやすく様々な方法が進んでいるようだ。また、感染状況によっては通勤日が増減している状況が継続しているようである。一方、特別支援学校は通常の通学に戻りつつあるようだが、自宅学習に慣れた子ども達の中には通学すること自体がつらく、引きこもりになってしまう事例もあるという意見もあった。

①車椅子使用の方

a.国際的に情報発信されている車椅子の方

・元々老人施設なので毎日スタッフも出勤しているため変化はないが、ショートステイも再開し、ほぼコロナ前に戻った。家族との面会は ipad で対応することは現在も継続している。利用者も慣れてきたようだ。

b.有識者

・オンラインが増えた。3 年前は行政によっては対応できないこともあったが、現在はかなり改善されてきた。

・オンラインが普通になったことで、当事者がアプリを使って字幕をつけることが比較的簡単にできるようになって非常に便利になった。

・日本がリモート対応に遅れている事に気づき、導入が進んだことはよかった。

c.団体で活動されている車椅子の方

・在宅勤務は週 2 回継続している。

・役員会等でのオンライン会議は便利で、体調が悪くても、全国各地から介助者の都合を合わせる必要やお金も掛けることなく参加できることはよい。

d.団体で活動されている車椅子の方

・出勤が週 1 となり体力が落ちてしまったと感じる。

・オンラインは地方の人とも連絡が取りやすく、仲間も増えた。気軽に相談もできるようになった。

②視覚障害のある方

e.団体で活動されている視覚障害の方

・変化はなく、データ作成は自宅で、必要に応じて通勤していた。

f.民間企業でお勤めの視覚障害の方

・職場ネットワークにアクセスできる PC とスマホが貸与され、目の見えない人達にとっても不便なく利用できている。

・開発に関与しており実際にサンプルに触らなければならないことも多いため、出社が認められない状況が長期になり不便だった。また、外出申請で許可が下りないこともあった。

・支払い処理や経費精算が電子化したが、電子押印が使えないことは課題。

・在宅勤務で対応できることが増えたため、2022 年 2 月は 1 度の出社しかしていないが、会社から送られてきたサンプルが家に沢山ある状況。

③聴覚障害のある方

g.中途失聴、難聴の当事者で企業でお勤めの方

・ほぼ在宅勤務となり、週 1 回ぐらいのオンライン会議には UD トークを利用して参加していた。音を聞きたかったが技術不足で文字を見るだけだった。

h.中途失聴、難聴の当事者で企業でお勤めの方

・勤務先から動画配信やメールなどの連絡が増え、対応が大変だった。動画に字幕をお願いしたら、字幕かシナリオのデータ添付となった。

・研修で UD トークを使うため、UD トーク配信の会社に外注を依頼し使ってみたが、とても良かった。研修で手話通訳を利用するために現地いかなければならないため、ひとりだけ在宅できないことに不公平感を感じている社員もいるようだ。聴覚障害の社員同士の情報交換の場がない。

i.講師活動をしている聴覚障害の方

・大学の講義は全てオンラインで自宅からできることはよいが、学生の姿や反応がわからないという問題がある。

・職場では名前を言う、一人一人が話すことなどルールが定着していることはよい。

・オンライン会議・講演等の際に、オンライン対応できる手話通訳者を探すことや、録画の場合の二次利用の対応も含めて確認が難しい場面があった。

※手話通訳は通常その場限りの通訳となるが、録画したものを再生する場合、二次利用となり別途許可が必要になる場合が多い。

④精神障害のある方

j.団体で活動されている精神障害の方

・在宅勤務で作業ができるが、家に一人でいることが難しく、家族に在宅勤務日をあわせてもらったり、別オフィスを間借りして仕事している。

⑤知的障害のある方

k.知的障害に関わる団体で活動されているご家族の方

・一般就労者の中には有休消化で休まされる人もいてトラブルになった事例もあった。特例子会社でも自宅で仕事ができない人も多いが、数回しか出勤していないこともあったようだ。

・B 型の福祉就労では自宅で電話で指示を受けながら在宅勤務している人もいた。厚労省では、在宅勤務も出勤日と見なされることとなった。

・学校は継続されていたが、歌うこと、集合型の取り組み、給食の準備など一切できなくなったため、体験的に学ぶ教育活動が減ってしまった。知的障害者は経験や体験から学ぶことが多いため、機会がなくなるのは大変なこと。

・通学において、単独通学の練習ができなくなった。人混みに出すのが怖いからということもあると思う。

⑥発達障害のある方

l.発達障害に関わる活動をしているご家族の方

・一昨年は学校に通うルーティンが崩れ自宅でパニックになったりしたが、学校が再開した段階で今度は家で安心、安全に学ぶことに慣れ、刺激の多い学校へ通うことが難しくなり、不登校になってしまった児童がいると聞いている。社会人でも在宅勤務から出勤に戻り同じように感じている人がいる。

・ある特例子会社では、社員自身を見える化できるプログラムを開発し、毎日決まった時間に起きる、通勤時間帯にエアバイクをこぐ、コミュニケーションの時間をダイアローグとして設けるなど工夫し、社員自身の不安に対応している。また、1 時間に 10 分のリカバリータイムを設定し働きすぎる問題にも対応している。また、オンラインで社員全員が写っている状態にしたり、チャットで御礼が伝えられる「ありがとうチャット」を用意している。

⑦難病の方

m.団体で活動されている団体の方

・相談員として勤務しており、職場はほとんど休止していたが、その後週 2 回の勤務。はじめはメールのみであったが、その後専用の携帯をレンタルし、面談もオンライン等も交えて再開している。

2-2. 買い物

日々の買い物は、近所のスーパーやコンビニで人の少ない時間を選びつつすませ、支払い方法もキャッシュレス決済に切り替えている方が多かった。また、ネット通販の利用の他、飲食店のネット注文やテイクアウトを利用するなど、買い物方法が多様化しているようである。レジではビニールカーテン越しのコミュニケーションが継続しているため、コミュニケーション支援ボードの設置を望む声の他、足マークでの並ぶこで気が楽になる傾向も継続している。また、視覚障害者にとっては並ぶ場所については人的サポートが必要との声も聞かれた。

①車椅子使用の方。

a.国際的に情報発信されている車椅子の方

・最寄駅周辺のスーパー等で全て間に合うので、大きなショッピングモールなどには行っていない。コロナ禍に慣れてきたという感じがある。

・ネット通販も利用するが、飲食店等には行きたい気持ちもあり、非接触の決済も増え、誰かに代わりに払ってもらうこともなくなり便利になった。

b.有識者

・銀行関係全てデジタル化し、買い物も電子決済にしたため、現金をあまり使用しなくなった。

・買い物は人の少ない平日の昼間などに行くようにしている。

・たまっていたクオカードや図書カードを使用した。

c.団体で活動されている車椅子の方

・近所のスーパー以外には、ネットでの購入が増えた。ウーバーイーツも一度だけ使った。

d.団体で活動されている車椅子の方

・近所のスーパーは利用せず、コンビニを利用。

・洋服を買いに出かけたとき、在宅勤務が増えたからかビジネス用の服が減っていると感じた。車椅子に座っていると生地が傷みやすく一定期間で買い替え必要だが、通販ではなく触って確かめて購入したい。

②視覚障害のある方

e.団体で活動されている視覚障害の方

・特に変化ないが、アルコール消毒の場所などは周りの人に聞いたり、レジ並びは周囲のサポートが必要。

・デパートに電話でサポートを依頼した際、3 日前までの事前連絡がなければ受け付けられないといわれた。

・以前は周りの人がサポートしてくれたが、今はお店がサポートしてくれるので楽な面があるが、一般の人がサポートしてくれる機会が少なくなってしまったので、時々お願いしたりすることも大切と思っている。

f.民間企業でお勤めの視覚障害の方

・paypay の電子署名がボイスオーバーが起動していると使えないシステムだったので、長い時間かけても設定がうまくいかなかった。友人に代行してもらったら 30 秒ほどでできた。障害者も paypay を利用するものだという認識がない。

・ヤマト便はネットで申し込むと伝票も作成してくれ集荷もしてくれるサービスがある。

・特に大きな変化がないが、イトーヨーカドーの商品を持ってくれるサービスも変わりなく違和感がなくなった。

・飲食店でない場所は早く閉店しており、情報がわからず行ったら閉まっていたということもある。
・ネット通販が益々増え、ネットで注文して取りに行く事もしている。
・出前館やすかいらーくのデリバリーを利用したり、松屋には注文して取りに行く。

③聴覚障害のある方

g.中途失聴、難聴の当事者で企業でお勤めの方

・近所のスーパーに行くようになり、レジ袋の大きさや値段が書いてあったので、指差しで伝えられるのはよい。緊急時は UD トークを活用したりしている。

h.中途失聴、難聴の当事者で企業でお勤めの方

・レジ袋有料化で答えることか増えたので、先にいらないことを伝えている。
・マクドナルドの、スマホで注文と決済ができて、さらに席まで届けてくれるサービスは好評。
・ネットでの購入が多い。ときどき誤配がある。問い合わせをチャットでできるが、そこにたどり着くまでがわかりにくい。

i.講師活動をしている聴覚障害の方

・amazon などネット通販の利用が増え、置き配を利用している。
・マスクやアクリル板越しでのコミュニケーションの難しさは変わらない。

④精神障害のある方

j.団体で活動されている精神障害の方

・ネットでの購入が増えた。
・生活スタイルは平常心を保つため特別な事はせず、変えていない。

⑤知的障害のある方

k.知的障害に関わる団体で活動されているご家族の方

・ネットでの購入が増えた。
・通常通り外出する人、ネットの購入する人、個人により差がある。
・セルフレジなど操作、選択することが難しく、後ろに人が並ぶとあせってしまう。
・IC カードで買い物できることはお金の管理が難しい人にとってはよいが、何かあった場合その場で判断することが難しく対応が難しい。また金銭感覚が弱い人にとってカードは実感がないため、つい使い過ぎてしまったという話もよく聞く。
・ビニールカーテン等は当たり前の風景となり、順応できていると思う。

⑥発達障害のある方

l.発達障害に関わる活動をしているご家族の方

・大きく環境は変わってはいないようだが、レジに並ぶ足マークが増えているのは役立っているようである。特にスタバは番号も書いてあるので、何番目に待っているかもわかるのはよい。レジのビニールカーテン越しに相手の声が聞こえず何度も聞き返してしまうこともあるので、コミュニケーション支援ボードのようなものも有効と思われる。
・テイクアウトと出前の利用が進んだ。
・電子マネーが進んだが、支払い方法やポイント付与も支払い前後どちらかなど、色々な方式がありすぎて悩んでいる人もいるのではなしいか。また後ろに並ぶ人からの「レジ圧」も感じている人もいると思う。

⑦難病の方

m.団体で活動されている団体の方

・消毒に神経質になっていた時期もあり、店の出入りで消毒、購入したものも消毒していたが、現在は買った物の消毒はやめている。

・ネット通販はあまり利用しないが、ちょっと高いが出前館の利用は増えた。

2-3. 通院

昨年以来変更は特にないという意見も多かったが、オンライン診療への切り替えや、ネット予約への対応等も進み、選択肢は増えているようである。さらに、薬の種類によっては宅配対応も始まっているようである。また、病院へ視覚障害者が単独来院することが当たり前になったと感じるなど、通院状況に少し変化があったようではあるが、本人に代わって家族が病院に薬をもらいに行く例も引き続き見られた。しかし、高齢者などはネット自体使えない人が多く課題も多く、薬の配達ができれば高齢者の通院問題の軽減も期待できるのではないかという意見も聞かれた。

①車椅子使用の方

a.国際的に情報発信されている車椅子の方

・入口に階段があるクリニックが多く、病気で困っている人が行くのに何故階段があるのか理解できない。

b.有識者

・コロナ禍で薬の処方期間が 2 ～3 ヶ月など長くなっている。

・睡眠時無呼吸症候群の CPAP マスクも機械からデータがオンラインで送信されているので、病院も電話診療での対応が可能になるはずだが、最も流行が深刻だったときに 1 回だけで、あとは対面の診療に行かなければならない。

・オンライン診療にできるのにしないのはデジタル問題の遅れであり、薬も宅配でできれば山間地の高齢者の通院問題も軽減できるではないかと思う。

c.団体で活動されている車椅子の方

・訪問診療なので変化なし

d.団体で活動されている車椅子の方

・訪問診療なので変化なし

・心療内科にもかかるようになった。（週 2 程度）

②視覚障害のある方

e.団体で活動されている視覚障害の方

・変化なし

f.民間企業でお勤めの視覚障害の方

・ネット予約でき、お薬手帳の記載内容もアプリで記録することができる。

・大きな病院で行ったとき、単独来院かヘルパーと一緒かと問い合わせがあったが、当日それほど待たされることなく担当の方が来てくれて一緒に回ってくれた。

・通院の際に単独で来院することに違和感を感じなくなっているようだ。

③聴覚障害のある方

g.中途失聴、難聴の当事者で企業でお勤めの方

・2020 年 4 月頃からオンライン診療が始まった。聴覚障害の場合、病院に電話連絡してからといわれても難しいので、区役所に相談し病院と薬局の FAX 番号リストをもらい、共有した。診療はオンラインでも、薬局は取りに行かなければいけないし、高齢の難聴者はオンライン自体を使えない人が多い。

h.中途失聴、難聴の当事者で企業でお勤めの方

・定期的に通院しているが、待合番号の出るモニター前に人が密集したり、相手にマスクをとって口元が見えるよう

にしてくださいと言いにくい。

・オンライン診療に登録した。

・薬の配達に需要があると聞いている。

i.講師活動をしている聴覚障害の方

・家族が入院中面会できなかったことはつらかった。テレビ電話などは wifi 設備がないと使えないなど課題も多い。

・病院への電話予約では電話リレーサービスなど第三者を通すのが面倒なため、ネット予約できる場所を探した。オンライン診療も行われているが、聞こえない人にはハードルが高い。

④精神障害のある方

j.団体で活動されている精神障害の方

・薬の出せる期間が決まっている。

⑤知的障害のある方

k.知的障害に関わる団体で活動されているご家族の方

・極力本人が外出しないようにする人が多く、電話診療の上、家族が薬を取りに行っている。

・知的障害者はホテル療養には向かないので、陽性者が多い時期でも、病院に入院でき助かった。また、都内だけかもしれないが、家族が陽性の時、ショートステイを用意するよう（助成金を出す）行政が努力してくれた。

⑥発達障害のある方

l.発達障害に関わる活動をしているご家族の方

・待合室の滞留を避けるため予約で時間を決めて通院していると聞いた。

・薬の処方には医師の診療が必須なものもあるので通院しなければいけない場合もあるが、花粉症の薬などは病院に行かず薬を送ってもらったりすることができると聞いた。

⑦難病の方

m.団体で活動されている団体の方

・変化はないが、薬などの使用機会を節約したりしている。

2-4. 会合

オンラインによる会合が継続しており、感染状況により対面で予定していた会合もオンラインへの切り替えが余儀なくされているようである。また、大学での講義は対面、オンライン選択も出てきたようであるが、オンラインの場合学生の反応が感じられないことなどがまだ課題として残っているようである。また、対面を基本としてる小学校での授業は、中止になったり、事前録画での対応が求められているようである。

オンラインによる会合では、名前を言ってから発言するなどのルールが確立され、手話通訳や文字対応等の情報保障技術も定着しつつあり、さらに多様な人が参加しやすくなったようではある。一方、高齢者など対応が難しい人は置き去りにされてしまう、また対面で実施できるまで見送るなど差が出てきているようである。

①車椅子使用の方

a.国際的に情報発信されている車椅子の方

・不要不急の集合型への参加は避けるよう言われていたが、現在は以前に戻りつつあるが、ヘルパーとの遠出は避けている

・会議はオンラインが多く、大学の講義は選択性だが楽なのでオンラインを選んだり、去年よりは少し楽になったと感じている。

b.有識者

・都内での小学校出前授業は秋から冬にかけて 30 校の内 20 校ほど現地に行く予定だったが、2022 年の年明け以降は延期や中止となった。

・集合型の会議の日程調整するときには開催日でのデルタ株の流行が予想できないため、流行がひどくなって急遽オンラインに切り替わったことが多かった。

c.団体で活動されている車椅子の方

・オンラインでの開催時の情報保障について、団体毎で希望が異なるが、それぞれが発言できるようになり、文字通訳を頼んでいるが字が小さくならないようになど配慮している。また、手話通訳は目の前でという要望から現地参加することもある。

d.団体で活動されている車椅子の方

・オンラインでの講演の場合、視覚障害者の方は一人で自宅から参加するのは不安という声もあり、自宅でサポートしたこともある。

②視覚障害のある方

e.団体で活動されている視覚障害の方

・ほぼオンラインに代わっているが、この先はハイブリッドにしていきたい。

・地域活動は必要な人だけが集まるようにしていて、2 年ぐらい集まっていない。

f.民間企業でお勤めの視覚障害の方

・変化はなく、zoom で開催されている。気軽に参加できるようになったと感じる。

・zoom だとフリートークが難しいが、臨場感のある音が聞こえたり、自分の横の人とだけ話すことができるような仕組みがあると聞いた。

③聴覚障害のある方

g.中途失聴、難聴の当事者で企業でお勤めの方

・2021 年は集合の会合を 13 回中止し、5 回だけ開催できた。2021 年 11 月頃からは開催できているが、夜間の会場使用や人数制限などにより会場が使えなくなると集まる事ができなくなる。高齢者はオンラインへの対応が難しい。

h.中途失聴、難聴の当事者で企業でお勤めの方

・新しく PC を購入した。zoom の使い方講座を開催したいが、使い方を知らない人のための講座を zoom で開催することもできないので、実現していない。

・オンラインが基本ではあるが、手話通訳の派遣制度はオンラインを前提としていないし、会議室のコード類（電源やケーブル）や通信環境が整っていない。

・職場で情報保障として自分だけ手話通訳がつけばよかったが、グループワークなどの場合、情報保障の関係で「ろう・難聴者」「聴覚障害者」だけが 1 つの斑にまとめられてしまうのは違和感がある。

・発言の前に名乗るというルールを、職場のオンライン会議でもひとりだけやってしまい不思議そうな顔をされる。

・PC やタブレットなど様々な機器の使い方が難しい。Bluetooth を使って補聴器や人工内耳で音を聞いている人もいるが、PC やスマホのそばにある他の機器と混線して音が途切れてしまうことがある。

・海外のオンラインセミナーは翻訳がついているので参加しやすいが、日本ではそれができていないことが多い。国内での情報保障システム自体が日本人しか対象としていないのは問題だと思う。

i.講師活動をしている聴覚障害の方

・オンラインで発言時は名前をいう、一人ずつ話すなどのルールが定着してきて良かった。

・会議など情報保障が十分でないことが多い。諦めてしまうことが多いが、どうしても参加したい場合は問い合わせている。
・セミナーなど後日アーカイブで見られるものは良い。
・小学校での授業は、対面ではできず録画して配信というケースもあったが、実施回数自体減った。

④精神障害のある方

j.団体で活動されている精神障害の方

・サポートグループは隔月でオンラインと集合で開催。集合の時は教室形式で座っている。

⑤知的障害のある方

k.知的障害に関わる団体で活動されているご家族の方

・オンラインにより参加しやすい人が増えた。
・多くの当事者、家族が支援を受けながらオンライン対応ができ、ブレイクアウトルーム機能を使ってワークを取り入れたり、様々な人と交流できる機会も増えたが、対面でないと話が深まらないなど難しい面もある。
・オンラインを利用できない人が取り残されないように工夫する必要があった。

⑥発達障害のある方

l.発達障害に関わる活動をしているご家族の方

・交流会はハイブリッド。緊急事態宣言時はオンラインのみだが、オンラインを利用できない人もいるので、ハイブリッドに切り替えた。
・打合せ等はほぼオンラインだが、移動時間が省けることは最大のメリット。
・交流会に参加することが息抜きになっていた人が家庭という密室で孤立してしまう懸念がある。
・当初は緊急ネットを作って相談にのったりしていたが、コロナへの基本的対応に慣れてきて現在は落ちついている。

⑦難病の方

m.団体で活動されている団体の方

・障害当事者との活動、会議、イベントは全てオンラインになっているが、この先はハイブリッドにしていきたい。

2-5. 娯楽

お散歩やジョギングなど健康増進や精神安定のために継続している他、地域の人達とのコミュニケーションをはかっている事例が聞かれた。コロナ前の状況に戻ることがまだ難しい所ではあるが、エンターテインメント（映画、演劇等）は徐々に戻りつつあるが、台本貸出等のサービスが終了してしまった事例もあるようである。また VR 旅行など新しい取り組みもはじまっているようである。ライブハウス等オンライン配信されたり、合唱などは感染状況により中止になることもあるが、感染対策を万全にすることで継続している事例もある。その他、字幕配信されるテレビ番組が増え、昔の映像を見たりする楽しみが増えた等があげられた。

①車椅子使用の方

a.国際的に情報発信されている車椅子の方

・徐々に外食したりすることが増えてきたが、月 1 回ぐらい、2～3 人と少人数で。

c.団体で活動されている車椅子の方

・呑みに行くことがまったくできなくなった。
・野球観戦は人数制限等もあり、例年の 5 分の一程度に。
・読書が好きになった。

d.団体で活動されている車椅子の方

・コロナ禍で舞台に行くことができない間に、俳優が亡くなり見に行くことができなくなってしまった。

・朝と夕方に近所を散歩する習慣ができ、地元の様々な年代の人と知り合いになり、地域活動にも参加し、声かけも増え地域の一員として認識されている。

②視覚障害のある方

e.団体で活動されている視覚障害の方

・合唱は昨年はお休みの期間が長かった。

・昨年とかわらずだが、一歩も家を出ていない日が 50～60 日ぐらいだった。

f.民間企業でお勤めの視覚障害の方

・合唱は継続しているが、消毒、換気や二酸化濃度を計測して注意を怠らない。

・色々なポッドキャストを集めて聞けるアプリが面白い。

③聴覚障害のある方

g.中途失聴、難聴の当事者で企業でお勤めの方

・昔のテレビ番組で字幕対応のものが増えて、テレビを見る機会が増えた。

・体を鍛えることを意識し、週 2 回ぐらいジョギングしている。

h.中途失聴、難聴の当事者で企業でお勤めの方

・Netflix や BS 朝日は字幕対応なので、よく見ている。

・演劇や宝塚でも、台本を借りるか字幕か選択できるようになってきた（全てではなく、交渉は必要）。テレビの音楽番組でも必ず字幕がある。デジタルで送られてきた台本など読む気力が続かないときは、読み上げ機能を使いつつ読んでいる。

・イベントに聴覚障害当事者が情報保障を交渉したが断られ、個人で派遣依頼があった場合、派遣センターが主催に交渉することがある。

・イベントに聴覚障害当事者が情報保障を交渉して断られたため、区役所の障害者差別解消窓口に相談したら手話通訳が認められたケースがある。

・美容院の若い世代の店員はデジタルネイティブの世代で、スマホでやりとりをしてくれるので頼みやすい。

i.講師活動をしている聴覚障害の方

・洋画が好きでコロナ禍は上映作品が少なかったが、この頃増えてきて嬉しい。邦画でも UD キャストでの字幕対応が増えてきて良い。

・劇団四季は復活してきたが、字幕端末の貸出サービスがなくなってしまったのは残念。

・舞台も復活してきて、海外ものだと字幕があるので特に嬉しい。

④精神障害のある方

j.団体で活動されている精神障害の方

・忘年会はオンラインで開催したが、体力的、経済的に現地に来れない人も参加できた。

・ライブハウスなどは配信ライブが増えた。

・生活スタイルは変えないようにしていて、一日 1 回の散歩はしている。

⑤知的障害のある方

k.知的障害に関わる団体で活動されているご家族の方

・旅行会社の企画により VR 旅行を楽しむ取り組みを行った。

・年間行事を楽しみにしていても体験できない寂しさを感じている人がいるだろう。

・移動支援を余暇活動に利用していたが、外出時の食がとれないことが課題であった。ベンチなどの休憩スペースが撤去され、一緒に食事がとれないこともあり、午前中だけのプログラムに変更したりした。

・本人に手作りクリスマスカードを送ったりしているが、どうしたら伝えやすくなるかなど、気付きも多かった。

⑥発達障害のある方

l.発達障害に関わる活動をしているご家族の方

・出前から外食へという雰囲気になっているのではないか。

⑦難病の方

m.団体で活動されている団体の方

・年末に 2 年ぶりに仲間と忘年会を開催できたのはうれしかった。

2-6. 行政等手続き

マイナンバーの登録方法や様々な変更手続きなど、行政のデジタル化への取り組みについての遅れを指摘する声がある一方、問い合わせなどについてはメール等での対応がすすんだという意見も聞かれた。また、マイナンバーカードを取得してみたが、あまり変化がなかったという意見もあった。

新型コロナウィルス感染症のワクチン接種状況については、自治体により障害のある人の接種について、対応がまちまちで一元的に障害者として隔離する方法をとったり、個々に対応しつつ誓約書の署名を求める事例や皆一緒の方法で接種されたりする事例が見られた。また、職域接種や集団接種により優先的に接種された事例も多く、ご自身の予約等について困ったという声はほとんどなかった。

①車椅子使用の方

a.国際的に情報発信されている車椅子の方

・デジタル化に対する行政の体制が古く感じるが、デジタル庁で改善されるかと期待している。

・ワクチン接種に関して：職場接種だった。ワクチンパスポートは氏名がカナ表記で長いので登録できるか不安だったか登録できた。

b.有識者

・車椅子を作りなおすにあたり年齢で介護保険利用となるため判定を受けた。車椅子使用者は要介護 2 に判定されることが多いとのことだったが、判定では要支援 2 となった。自分に合わせて設計した家なので住宅内で自身ができることが多いためと思う。介護保険では車いすはレンタルなので、個人の障害に応じた細かいニーズに対応できない場合がある。そのときは福祉制度で作ることになる。

・ワクチン接種に関して：ネット予約しても何も問題なく、接種会場も車椅子での経路に問題はなかった。

c.団体で活動されている車椅子の方

d.団体で活動されている車椅子の方

・ワクチン接種に関して：1 回目のワクチン接種で障害者だけ別室に分けられ、送迎バスにはリフトがついていない、知的障害のあるお子さんの家族は乗車できないなど差別的な対応がみられ抗議したが、2 回目も変化はなかった。

②視覚障害のある方

e.団体で活動されている視覚障害の方

・ワクチン接種に関して：体調が悪く、接種できていない。

f.民間企業でお勤めの視覚障害の方

・スマホでの手続きをする人が増えているが、マイナンバーカードはセキュリティ対策ができていてスマホ活用ができるはずだが、マイナンバーカードの写真と自分の顔を撮影して送信する仕組みになっている。顔を枠内で撮影することが難しく、音声ガイドもない。

・郵便局に新しい認証システムができ写真登録がないと 1 日 5 万円までしか振り込めない、住所変更ができないなど縛りがでてくるらしく、写真が必須だと困る。

・地域応援券（5500 円分）が各家庭に届けられ、1000 円購入毎に 500 円券が使える仕組み。小規模、大規模により使える券種が分かれている。10 枚の内 5 枚の角が切られていたため、インターネット等で調べて見たがどちらの券種かわからなかったが、2022 年度では広報されていた。

・ワクチン接種に関して：マイナンバーカードがあることで接種証明書がスマホに送信されてきたのはよかった。

・ワクチン接種に関して：職域接種で受けているが、ケースワーカーが居住地域の接種状況を教えてくれたりしている。

③聴覚障害のある方

g.中途失聴、難聴の当事者で企業でお勤めの方

・都知事の会見に字幕がなかったが、その後ネット上の会見にボランティア団体が字幕表示するようになり定着した。

・ワクチン接種に関して：接種スケジュールの変更などホームページを確認しなければいけないので、改善を申し入れる予定。

都内の区役所では聞こえない陽性者に対して、ファックス相談窓口が用意されているが、２，３回送って連絡が来たなど運用面も考える必要がある。行政としてメールもあると思うので、メール主体でもよいかと思う。

厚生労働省では LINE の連絡先が掲載され、その後東京都でも掲載された。地域では保健所との直接連絡が多いので、LINE を用意してもらうなどの対応をお願いしているが、地域の団体によって要望はバラバラではないかと思う。

h.中途失聴、難聴の当事者で企業でお勤めの方

・別の機会で調べたが、問い合わせフォームやメールでの問い合わせが可能になったところが増えている。

・市役所に家族のことを相談しに行ったとき、手話通訳をすぐにつけてくれ断られることはなくなった。

・行政の動画一覧をみて、字幕付きかどうかを判断するのが難しい。字幕付き、なしの動画を両方配信している自治体もある。

・ワクチン接種に関して：ワクチン接種に関して：接種会場で聞こえないことを伝えたら、係員が一緒に対応してくれた。

旅行会社はイベント慣れしているからか接種事業を受託している所が多い。

i.講師活動をしている聴覚障害の方

・医療機関との連携などで便利になると思ってマイナンバーカードを取得したが、何も変わらなかった。

・ワクチン接種に関して：かかりつけ医で接種したので、特に問題なし。

④精神障害のある方

j.団体で活動されている精神障害の方

・証書発行はコロナ禍なので延長しているといわれ、ハンコだけ押された。

・ワクチン接種に関して：予約で朝 9 時から電話もネットもつながらない状況だったが、通院後確認していたら予約できていた。大規模接種会場だったが、優先接種対象か証明のため署名させられた。

⑤知的障害のある方

・職員の多くがコロナ対策にまわっていて人数が少なくなっているようだが、ほぼ影響はない。

k.知的障害に関わる団体で活動されているご家族の方

・ワクチン接種に関して：知的障害者が優先的に施設、作業所単位での集団接種を受けられ、行政が日程を調整し理解ある医師を派遣してくれた。

・ワクチン接種に関して：マスクができない、ワクチンの意味がわからない、大暴れして会場に行くことが難しいなどあるが、最も助かったのはドライブスルー方式の接種（東京都が実施）だった。場所を増やしてほしいと要望したが叶わなかった。（3 日間ではなく 3 ヶ月に結果的に延長された）

⑥発達障害のある方

・ワクチンについてどこで何を受けるかで混乱していたと聞いた。

l.発達障害に関わる活動をしているご家族の方

・ワクチン接種に関して：職域接種したが、家族間で対象外の場合もあり、予約等が大変だった。
障害を一括りにしてごちゃ混ぜにすることがよいと考えるケースがある。個室接種が必要な人と、そうでない人がいることを考える必要がある。

⑦難病の方

m.団体で活動されている団体の方

・ワクチン接種に関して：病院での接種を選び接種したが、病院までが駅から 15 分程歩く所だったので、低血糖になった。

2-7. 日常生活に伴う移動

ご自身の日常生活に伴う移動については、移動を控えつつ自家用車での移動が心の拠り所になったり、車椅子の方は人の移動が少ない中で渡り板なく乗車できる駅での乗車練習などされたとの意見が聞かれた。また、人が少なかったため、ストレスなく快適であったという意見の他、エレベーターでの車椅子使用者等の優先利用の表示が増えたことで、優先人数制限に伴って利用しにくかったエレベーターも利用することができるようになったという意見も聞かれた。

①車椅子使用の方

d.団体で活動されている車椅子の方

・特に変化はないが、渡り板なく乗車できる駅に乗降の練習に行った。

・在宅勤務が増える中、出勤時間に障害者がなぜいるのかと悪意のある声かけが増えた。

・エレベーターに人数制限の足マークがつけられ、乗るとにらまれたこともあったが、優先利用を促す表示も増え、そういうことはなくなっった。

②視覚障害のある方

f.民間企業でお勤めの視覚障害の方

・2 回だけヘルパーに移動支援を依頼した。どのような手続きが必要なのか知る事ができたのはよかった。

・声かけは多いが、見守りの場合、後ろから足音だけ聞こえる場合もあり、気が散ってしまう。また、案内の際に周囲の人に「通ります」と大声で声かけなどされたり、必要以上に待機し乗りたい電車に乗れないこともある。

⑥発達障害のある方

I.発達障害に関わる活動をしているご家族の方

・移動を控えつつ、自家用車で移動できることが心の拠り所になっていたのではないか。

・人が少なく電車などもストレスなく快適であったと聞いた。